

# 学励コース「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.1 平成28年6月1日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。→ 新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

○H28年度開講式 5月2日(月) 16:10~16:50 (本校 社会科教室)



新年度、学励コース2年生で医療系の職業を目指す仲間が、本格的なプログラムをスタートしました。今年度のメンバーは、男子5名・女子7名の合計12名です。開講式冒頭で、校長先生から「医療機関や大学の先生方をはじめとして、たくさんの人々に支えられ県民の皆さんから期待されている。」という励ましのお言葉をいただきました。

一人1分間の決意表明では、緊張しながらも一人一人がしっかりと将来の目標や抱負を述べることができました。12名の進路希望の内訳は、「看護師」7名・「理学療法士」2名・「助産師」1名・「臨床検査技師」1名・「診療放射線技師」1名です。1年間、切磋琢磨して学んでいきます。

○ 医療講演会 5月20日(金) 講演『看護の仕事』・グループワーク

14:00~16:00(1学期中間考査最終日・午後) (本校 社会科教室)

講師 稲波千加子先生(信楽園病院手術室看護師長)

関本 昌子先生(信楽園病院看護師)

信楽園病院の現役の看護師でいらっしゃる、稲波千加子先生・関本昌子先生をお迎えしました。「看護学校って、どんな所?」・「看護師さんのポケットの中」・「夜勤の様子」・「集中治療室の様子」など、リアルな看護師さんのお話に、みんな興味津々でした!

演習では、患者様への食事の介助技術を学んだり、手術着・ゴーグル・手袋・マスクを着用したり、血圧計や聴診器の使い方や包帯法を実習し、奉仕の精神・愛情・体力・集中力・度胸の必要性を実感しました。



熱心な質疑応答風景



様々な味の嚥下食



食事介助・目を閉じたままア〜ン



聴診器で心音を聴きながらの血圧測定



エプロン・マスク・手袋・ゴーグル



手術着の着用と始末の方法



包帯法・麦の穂のように巻きました

## 生徒の感想

●今回の講演会では「生きる質を考える」の言葉が一番印象に残っています。看護師は、患者さんの心を健康にすることも大事な仕事だと思いました。また「命と向き合い命を学ぶ」とは言う事は簡単ですが本当にそれを行うことはとても難しい事だと思いました。(2年女子・診療放射線技師志望)

●目をつぶっている相手にゼリーを食べさせるのは難しかったです。スプーンの前の部分から中央までの半分くらいにまでゼリーを乗せて、相手の口からスプーンを抜く時に少し上に向けてゼリーをスプーンから落とすようにしてあげるのがいちばん食べやすそうだと感じました。(2年女子・看護師志望)

●手術室での看護師の仕事は、「直接介助」と「間接介助」があって、手術ではミスがないように注意を払うことを学びました。今後の病院見学の時にも意識したいと思います。嚥下食は、カレー味や味噌風味など、色々な味があって驚きました。包帯法も学びましたが、最近では包帯をほとんど使わないということにも驚きました。(2年男子・看護師志望)

●看護師に必要なことは、気力・体力・協調性・高い学習意欲・クヨクヨ思い悩まないことなどと、お聞きして参考になりました。(2年女子・看護師志望)

●1年生のときの講演会では聞くことのできなかつた看護師のすべきことや、仕事の内容の多さなどを学びました。看護師の中でも、担当する役職によって全然違うし、役職に就いてから学び始めるなんて、常に勉強している状態なんだなと思いました。特に驚いたのは、食事介助は、人それぞれの身体の様子によって異なる食べ方や、好き嫌いをしっかり把握して介助していることです。今回の演習は、すごくためになりましたし、興味がますます湧いてきました。また、講師の先生方は、私たちに優しくフレンドリーに接して下さって、優秀な看護師さんはコミュニケーション能力が高いのだなあ、と実感しました。

(2年女子・看護師志望)

「手術室担当看護師」の稲波先生。中堅看護師として活躍されている関本先生。スペ

シャリストである先生方から、医療の道の厳しさ難しさ、やりがいについて御講演いただきました。また、“本物の”医療用器具の扱い方や介助方法などを御指導いただき、初めての演習でしたが、和やかな雰囲気の中で有意義な時間を過ごすことができました。

6月には新潟大学医歯学総合病院の見学もあり、今後の職業研究は、より発展的になると期待されます。